

生成AIやデータサイエンスを活用し 企業や団体等と連携 課題解決型学習（PBL）キックオフイベントを開催 ＝ 5月10日（土）永国寺キャンパス＝

本学 データ&イノベーション学群（昨年4月開設、以下D&I学群）と、企業や団体等が連携し、実社会にある様々な課題の解決に取り組む実践教育 Project Based Learning（PBL：課題解決型学習）の第1期プロジェクトについて発表いたします。

PBL第1期プロジェクトで連携するのは、銀行や建設会社、商店街組合など、県内外の10の民間企業や団体、公的機関。生成AIやデータサイエンス等を活用し、今年度より、街づくりや店舗の改善、広報戦略の策定など、各プロジェクトで見出した課題に沿って実践的に取り組んでいきます。

5月10日（土）に開催するキックオフイベントでは、2年生（D&I学群1期生）が、各プロジェクトの内容について発表（当日発表する各プロジェクトの概要は別紙）。また当日は、基調講演として「激変する小売業界を生き抜く！ドン・キホーテのデータ・デジタル変革と地域との連携」と題し、PPIH（旧ドン・キホーテHD）のDX責任者 小林 真美氏と、ドン・キホーテ高知店長 伊藤 敦史氏にもご登壇いただく予定です。

高知工科大学 データ&イノベーション学群 PBLキックオフ講演会

- 日時：2025年5月10日（土） 13:00～17:30
- 会場：高知工科大学 永国寺キャンパス 教育研究棟A105
- 費用：無料 ■定員：220名
- 申込：本学ホームページ（EVENTS）から お申込みください
- 内容：① 基調講演 13:10～14:10（予定）



「激変する小売業界を生き抜く！ドン・キホーテのデータ・デジタル変革と地域との連携」

小林 真美氏 [株式会社カイバラボ（PPIHグループ企業）]

データコラボレーション部長 兼 データ事業推進部長]

伊藤 敦史氏 [ドン・キホーテ高知店長]

② 2年生（D&I学群1期生）による第1期プロジェクトの内容説明

14:20～15:10 5チーム×10分 / 15:20～16:10 5チーム×10分（予定）

③ 学生との意見交換会 16:30～17:30（予定）

※ 2024年4月に開設したデータ&イノベーション学群は、文理統合力を育むため、AI・データサイエンスと経営・財務等のマネジメントの文理両分野を網羅的に学ぶ基盤教育を通して、未来のイノベーション人材を育成しています。その教育プログラムの柱として、学んだ知識や技術を生かして実社会の課題解決に取り組む実践教育を重視し、企業や自治体と連携した地域密着型の課題解決型学習（PBL）を行っています。

取材ご希望の場合は、
5月9日(金)の17:00までに
右記 広報課までご連絡ください。

【本リリースに関するお問い合わせ】
高知工科大学 広報課 渡瀬・前田
TEL.0887-53-1080
E-mail : kouhou@ml.kochi-tech.ac.jp

PBL のプロジェクトリスト・概要

【Group 1】 ゴールが明確なテーマ

明德義塾中学・高等学校：スポーツデータサイエンス

横峯さくらや松山英樹を輩出してきたゴルフ部のトップ層・戦績アップにつながる、デジタル技術の利活用法を検討する。具体的には、スイング動画分析・弾道シミュレーション・スマートウォッチデータを活かした生成 AI との対話型アドバイスサービスによる技術向上・メンタルコントロール支援を行う。

和建設：多様な暮らしに応える住まいの提案とプロモーション戦略

地方において持続可能なマンションビジネスを再構築することを目指し、多様なお客様のニーズに応える住まいを提案し、建設予定マンションの販促支援を行う。具体的には、新規顧客開拓を加速させるオプションサービスの考案や新たな広報戦略（特にオーガニックリーチの有効化）の策定を行うとともに、モデルルーム見学後のフォローアップ生成 AI システム構築へ向けたプロトタイピングを行う。

【Group 2】 街づくりテーマ

高知城歴史博物館：文化資産を活かした商店街活性化

高知市の帯屋町筋を対象とし、住民、商店街、観光客が「歴史ものがたり」を共有し、楽しめる街づくりを考える。具体的には、「GIS を用いた侍屋敷の復元」や「藤並神社御神幸の再興（まずは 3D 空間内での再興）」に共創型ストーリーを掛け算することにより、街の活性化・観光客の呼び込み・博物館への人流創出へと繋げる。
※協同組合帯屋町筋プロジェクトと密に連携する

協同組合帯屋町筋：商店街活性化・人流データ活用

高知市中心商店街のさまざまなデータ（すでに設置されている AI カメラの人流データも含む）を活用し、インバウンド客等の商店街個店への集客施策サポート、ならびに商店街全体のショッピングモール DX 構想（文化資産×DX 施策×ショッピングモールのエンタメ性）の実現に向けたプロトタイピングを行う。
※高知城歴史博物館プロジェクトと密に連携する

【Group 3】 調査・提案テーマ

四国銀行：地域資源を活かした未来創造プロジェクト

新産業をつくり出し地域活性化につなげることを目指したプロジェクトである。具体的には、絞り込んだ案件（＃）の事業化を加速させるような、生成 AI を用いた特許分析・オルタナティブデータ分析等の支援を行う。
（＃）プレスリリース前のため具体度が低い説明となっている

高知広告センター：データを活用したマーケティング

1）高知の若者白書プロジェクト：高知県在住の大学生を中心に、若者のリアルな実態を調査しそのデータを元に高知の新しい未来を創っていく。2）お土産物屋（とさてらす）改善プロジェクト：データを起点にした分析から販売品目や売場構成の改善、オリジナル商品開発などを検討・提言をしていく。

別紙②

【Group 4】 グローバルテーマ

FIDR：国際協力分野

山崎製パン株式会社が立ち上げた国際開発救援財団が実施している「中部ベトナムにおける地域資源を活用した持続的な農村開発プロジェクト」の支援を行う。具体的には、CBT（コミュニティベース・ツーリズム）を通じた少数民族支援のために必要な、バックオフィス業務支援（シーズ発掘・プロジェクトデザイン・フィードバック業務支援）に関わる PDCA 管理の DX ならびに市場や政策の調査・分析 DX を行う。

日本マイクロソフト：様々な業種の人材育成

本プロジェクトでは「生成 AI に関する使う技術」「運用を見据えたコンサル」に必要となる能力を体験を通じて身に付け、企業と共同した DX プロジェクトの立ち上げに参画できる人材となることを目標とする。当学群が目指す人材像を強く意識した濱口特任教授（マイクロソフト・コーポレーションと兼任）を中心とする人材育成塾である。ここで得られたノウハウを仕組み化し横展開することも狙っている。

【Group 5】 共同研究テーマ

あいおいニッセイ同和損保：テレマティクスデータサイエンス

テレマティクスとは、自動車に付けたタグから運転行動情報を収集するものである。このデータとアンケート等による性格・心理データ、健康データ等を組み合わせて、高齢化社会でも安全なモビリティが確保できる方策を模索していく。

西日本高速道路エンジニアリング四国：インフラマネジメント

高速道路の安全・安心を確保するために高速道路舗装を対象とした課題を解決していく。例えば、舗装に生じるポットホールと呼ばれる穴ぼこの発生予測など、高速道路利用者の安全・安心を脅かすリスク事象を分析し、事前に対策する方法を考えていく。